

## ヨハネ 21:1-19

21:1 その後、イエスはティベリアス湖畔で、また弟子たちに御自身を現された。その次第はこうである。

21:2 シモン・ペトロ、ディディモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、それに、ほかの二人の弟子が一緒にいた。

21:3 シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。

21:4 既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。だが、弟子たちは、それがイエスだとは分からなかった。

21:5 イエスが、「子たちよ、何か食べる物があるか」と言われると、彼らは、「ありません」と答えた。

21:6 イエスは言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ。」そこで、網を打ってみると、魚があまり多くて、もはや網を引き上げることができなかった。

21:7 イエスの愛しておられたあの弟子がペトロに、「主だ」と言った。シモン・ペトロは「主だ」と聞くと、裸同然だったので、上着をまとって湖に飛び込んだ。

21:8 ほかの弟子たちは魚のかかった網を引いて、舟で戻って来た。陸から二百ペキスばかりしか離れていなかったのである。

21:9 さて、陸に上がってみると、炭火がおこしてあった。その上に魚がのせてあり、パンもあった。

21:10 イエスが、「今とった魚を何匹か持って来なさい」と言われた。

21:11 シモン・ペトロが舟に乗り込んで網を陸に引き上げると、百五十三匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多くとれたのに、網は破れていなかった。

21:12 イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも、「あなたはどなたですか」と問いただそうとはしなかった。主であることを知っていたからである。

21:13 イエスは来て、パンを取って弟子たちに与えられた。魚も同じようにされた。

21:14 イエスが死者の中から復活した後、弟子たちに現れたのは、これでもう三度目である。

21:15 食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。

21:16 二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。

21:17 三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたし

を愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。

21:18 はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」

21:19 ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。

-----

いろいろな暗示がほのめかされている長い聖書箇所ですが、ポイントを二つほど話します。

<真っ暗闇の人生>

3 節「わたしは漁に行く」

ペトロはもともと漁師ですから、遊びで釣りにいくわけではない。仕事を始めるという意味です。すると他のみんなも一緒に行くといった。いったんは網を捨て、舟を捨てイエスに従った弟子たちですが、いまはイエスとの日々をなかつたことにしてもとの生活に戻る、漁師に戻ったのです。すると徹夜明けの早朝、復活のイエスがあらわれ、なにか

食べるものがあるか、と聞くとないと答える。するとイエスは舟の右に網を打ちなさいという。いわれたとおりに網を入れると大漁となる。そこで彼らはやっとイエスだと気づく。

イエス亡き後、ユダヤ人の攻撃を恐れて部屋に引きこもっていたところ復活の主に会う、そしてエルサレムから故郷ガリラヤに帰る。イエスの働き、宣教ををするかと思えば、イエスのことを忘れてもとの漁師を始める。でも何にも取れない。そこにイエスが現れ、舟の右に網を打てというわけです。

弟子たちは頼みの綱のイエスを失い途方にくれている。

「人生の悩み苦しみ、辛さ儚さを体験してきたわたしの気持ちなんてだれもわかりっこない」こんな気持ち、自分の殻に閉じこもる気持ちはだれにだってあります。

八方塞り、打つ手なし、なにをやっても、どんなに頑張っても「突破口なし、出口なし」そんな人生の夜、人生の闇の状態。どんな人でも経験することではないでしょうか。でもそんな闇の中にいる時こそ、ことばとしるし=奇跡は与えられています。

「網を打て」イエスの言葉に信頼してそのとおりにする、みことばに従いペトロたちの道は拓きました。

<第二の召命>

15 節から「愛しているか？」イエスは三度もペトロに問い

かけます。もしその時、おまえの責任はどうなった、おまえは誠実であったか、とイエスに尋ねられたらペトロはどう答えることができるでしょう。「失敗しました、裏切りました、逃げ出しました」としかいえないでしょう。

かし、イエスの質問は責任や誠実を問うものではありませんでした。ただ「わたしを愛しているか」といったのです。

この質問はペトロにはうれしい問いかけだったかもしれませんが。かし、よく考えてみるとおそろしいことです。

もし、今ここで、わたしたちにイエスが現れ、「わたしを愛しているか」と問われたと想像してみてください。あなたは怖くないですか、「はい、愛しています」と答えられますか？正直なところわたしには分かりません。恐ろしくて逃げてしまうかもしれません。

19 節：このように話してからペトロに「わたしに従いなさい」といわれた。

きょうの福音はペトロの第二召命のエピソードだともいわれています。

ペトロと同じようにわたしたちも人生の途上でいつか信仰や神、教会をあきらめそうになったり、実際にあきらめることがあります。

かし、ペトロに起きた今日の福音箇所のように、経験・ある出来事を通して、あるいは歩んだ過程の結果として

きっと第二の召命が与えられることを忘れないでください。